

	学校名: 豊島区立明豊中学校	
	氏名: 櫻井 直	● 実践教科等: 公民
		● 時間数 : 3時間
THAILAND	[担当教科: 社会科]	● 対象生徒 : 3学年
		● 対象人数 : 30人

1 単元名

第4編 私たちと国際社会 第2章 国際社会の課題と私たちの取り組み
「未来の地球をともに考える」

2 単元の目標

タイ国に支援をするならどういった支援が適切かを考える。(・③多面的、総合的に考える力)

3 資質・能力育成に向けた授業づくりの視点(国立教育政策研究所・2014)

- 1 意味のある問いや課題で学びの文脈を造る
- 2 子供の多様な考えを引き出す
- 3 考えを深めるために対話のある活動を導入する
- 4 考えるための教材を見極めて提供する
- 5 すべ・手立ては活動に埋め込むなど工夫する
- 6 子供が学び方を振り返り自覚する機会を提供する
- 7 互いの考えを認め合い学び合う文化を創る

4 単元の指導について

(1)教材観

- ・生徒の興味・関心を引き出すために、視覚に訴える資料を活用する。各時間において、目標に沿って学習するためのワークシートを使用する。
- ・既習事項である南北問題と南南問題の知識と関連させながらODAの役割を考察できるようにする。

(2)児童生徒観

- ・落ち着いた生徒と、活発な生徒がはっきりと分かれている学級である。活発な生徒ほど学習に対しての取り組みが意欲的である。これまでの定期考査の結果は、他クラスに比べて平均点が高い。ただ、限られた生徒の発言に偏っている傾向があるので、一人一人が意見を表明することができるような指導の工夫が必要である。

5 評価規準

観点 評価	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
単元の 評価規準	様々な課題を抱える国際社会において、異なる国や文化の間で、どのような国際協力ができるのかを意欲的に考えようとしている。	国際社会における我が国の役割、日本の国際貢献、世界平和や地球環境、資源、エネルギー、貧困などに関わる課題を見だし、対立と合意、公立と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その課程や結果を適切に表現している。	世界平和の実現と人類の福祉の増大に関わる国際社会の活動に関する資料を様々な情報手段を活用して収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	人間の安全保障の考え方やそのための国際協力力のあり方、日本の具体的な取り組みについて理解している。

JICA 教師海外研修 授業実践報告書フォーマット

学習活動に即した具体的な評価規準	* 上記の規準について、児童・生徒が、何をどこまで達成したら「B(概ね満足できる状況)」とするかを設置すること			
	① 日本の国際協力の在り方を理解し、貧困国に対する日本の取り組みをノートに記述できている。自身の考えを挙手発言できている。	① ワークシートの発問に対し、個人で予想を立て、自分の考えを1つ以上記述できている。	① ワークシートODAに関わる資料を的確に読み取ることができている。	① 既習事項と関連させながら、日本のODA 優先配分国の予想を的確に解答することができている。

6 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	現代の貧困と多様化する世界	・世界の貧困について主体的に関心を持つ。 ・南北問題と南南問題の違いを理解する。	・南北問題と南南問題の言葉のイメージからなぜ南地域が貧しいのかの予想を立てる。 ・日本のさまざまな国際協力について学習し、政府開発援助(ODA)の役割を理解する。
2	日本の平和主義と国際貢献	・政府開発援助(ODA)の役割を理解する。	・発展途上国例としてタイ国を扱う
3	未来の地球をともに考える	・発展途上国への支援として何が適切かを考える。	・ODAについて、政府開発援助額の順位を資料から読み取る。 ・タイ国への援助の項目として重要度のあるものの順でランキングを付ける。

7 授業事例の紹介

小単元名【 未来の地球をともに考える 】

(1) 指導案

(ア)実施日時 12月21日(水)第2限

(イ)実施会場 3年3組教室

(ウ)本時の目標

・発展途上国(タイ国)への支援としてどういった支援が適切か自分の考えを発表する。

(エ)指導のポイント

・視聴覚教材を豊富に用意、明示することで生徒を飽きさせない授業を展開し、国際社会学習の初期段階から国際社会に対しての興味・関心を育む。

・主発問に対して個別活動とグループ活動両方で考えさせることで、個人で考える力とグループで考える力を養う。

・グループ活動では発言する力以外に他人の意見を聞く力も同時に養えるような取り組みとして、コミュニケーション能力の育成を図る。

JICA 教師海外研修 授業実践報告書フォーマット

(オ) 本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
導入 7分	<p>・本時の目標を示す</p> <p>ODAって何だろう</p>	<p>・路上で勉強するフィリピンの少年の写真から、場所はどこか予想を立てる。</p> <p>・「フォトランゲージ」青年海外協力隊の活動写真から気づくことを挙げる。</p>	個人	<p>・正解を探すのではなく、生徒の気づきを自由気ままに拾い上げる。</p>	<p>姿勢良く意欲的に授業に臨んでいる(目視)関心・意欲・態度</p>
展開 33分	<p>国連が指定するODA優先配分国と日本が多く援助している国とは</p> <p>ODAの種類</p> <p>タイ国への適当な援助項目を考えよう</p> <p>・ランキング発表</p>	<p>・国連の優先配分国を端の生徒から順番に読み上げる。</p> <p>・日本が多く援助をしている国の予想を立てる。(ワークシート)</p> <p>・日本のODAの区分グラフを読み取る。</p> <p>・「ダイヤモンドランキング」で援助項目として重要度のある順にランキングを付け、理由を考える。 A水道インフラ B学習環境 C農業 D工業 E高齢者障害者支援センター F食料 G医療 H交通・貿易 Iその他</p> <p>・班ごとにランキングのポイントを発表する。</p>	<p>個人</p> <p>個人(5分)</p> <p>4人班(10分)</p>	<p>・ゲーム性を持たせる為に、国名を読むのにつかえたら、最初からやり直させる。</p> <p>・前時に学習したタイ国の現状(既習事項)を思い出しながら班ごとに最上位と最下位のポイントを4人で合意形成できるように話し合わせる。</p>	<p>・ランキングを選んだ理由を的確な文章で記述できている。(ワークシート)思考・判断・表現</p> <p>・班の考えを意欲的に発表できている。(目視)関心・意欲・態度</p>
まとめ 10分	<p>・ODAには無いNGOの活動</p> <p>・未来の地球を考えて、これから私たちができる援助とは何か</p> <p>・日本のODA実績上位国にアフリカの国が少ない理由</p>	<p>・教師がNGOの活動例を紹介する。</p> <p>・ワークシートに自分の考えを記入する。</p> <p>・日本が支援する優先配分国が決定した実情を教師の話から知る。</p>	個人	<p>・青年海外協力隊や身近な学校で取り上げている支援もNGOに当たることを意識させる。</p> <p>・日本のODAの金額と内訳は果たしてこのままで良いのか、自分たちの未来を考えて、これからはどうしていったら良いのかを投げかけて終わる。</p>	

(2) 授業の振り返り

「発展途上国に対しての援助項目を生徒が考える」

これまで思考の評価をメインにした話し合い活動や個人での考察等を各単元の学習に取り入れてきたが、ここまで既習事項に照らし合わせて考察を広げる授業は今までに無かったのでは無いかと感じた。というのも、教師が実際に見てきた資料や写真に教師自身が写った教材等を使用したことは、生徒に世界を身近に感じてもらえるものになった。また、授業の流れとして発展途上国に対してのイメージを学習した上に、現状世界の貧困はどこまで広がっているのかをグラフ資料や地図から読み取る作業を通じて3時間の中で蓄積してきた知識を発揮できるような流れにできた。例えば、話し合いの中で「タイは衛生面があまり良くなかったから水道インフラを整えた方が良いのではないか。」や「食料や金銭は支援した時点で消化してしまうが、農業や工業の技術支援は長期的な目で見て発展を援助できる。」等といった考えが生徒からでてきたことが大きな成果である。

(3) 使用教材

写真「路上で勉強するフィリピン少年」、「青年海外協力隊活動写真」



ワークシート

(4) 参考資料等

外務省HP「日本のODA実績」

8 単元をとおした児童生徒の反応/変化

「貧しいから援助する。だけではなくて…」

ある生徒のワークシートに書いた考えを例にする。

問 未来の地球を考えて、これから私たちはどんな援助を行っていったら良いだろうか。

1 授業を通して、自分たちが使っていた物(服、靴、ランドセル、バッグ)などを少しでも貧しい国々に送ってあげることが大切だと思った。

↓

2 他の国を発展させることだけを考えずに環境面の配慮が未来への地球が続く、持続可能な社会になっていくと思うのでお金のことを考えずに技術面の支援が大事だと思う。

個人ができる支援(募金や物資援助)の観点から、ODA を授業のメインに学習したことで、国としてどう取り組んだら良いかの意識や、長期的な目線を生徒に養うことができた。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

- ・成果:個人ができる支援(募金や物資援助)の観点から ODA を授業のメインに学習したことで、国としてどう取り組んだら良いかの意識や、発展途上国を自立支援させる為の長期的な目線を生徒に養うことができた。
- ・課題:タイの援助項目を考えさせるといった論点を絞った思考にしたが、実際のタイへの二国間援助の内訳を資料として見せるなど生徒が考察した後のフィードバックをできなかったこと。
- ・改善策:授業が学期末になってしまったことから、タイへの ODA 内訳を示した資料を3学期の授業で提示する。また、生徒が考えた意見を例示しながら次回の授業に繋げるようにする。

10 教師海外研修に参加して

「日本が今後果たすべき役割と途上国の自立支援の必要性」

本研修では、1 バンケン浄水場視察、2 LTOP(高齢者ケアサービス)サイト視察、3 APCD(アジア太平洋障害者センター)サイト視察、4 サイエンスハイスクールチョンブリ校見学、5 レムチャバン港視察、6 クロントーイスラム視察、シーカー財団施設(図書館)見学、7 セサティアン聾学校見学、シニア海外協力隊員(美術科教員)の講義、8 バンコク都小学校訪問といった数多くのプログラムを経験することができた。訪問先の共通点としては、どの施設やプログラムも支援のもと成り立っていることが挙げられる。支援を必要とする国では間違いないが、当初、発展途上国として認識していたタイ国の印象は実際に視察したことで大きく変化した。講義においても ASEAN の中心地として発展し、もはや中進国であり、高齢化が問題になっている点は日本とも似ていた。また、訪問した各学校の生徒の様子を見ていると、将来の夢やどういった大人になりたいかのビジョンが明確であり、勉強を頑張り、国の発展に寄与しようという姿勢が見て取れた。水道や交通網のインフラにはまだまだ課題があるが、先進国の援助を受けながら中進国から先進国の仲間入りをしようとする国民意識がそこにはあった。ただ、タイムカードの退勤時間が全て17時で押されていた残業の無い勤務感にはびっくりしたが…

そんな国民意識を感じながら、向かったクロントーイスラムの現状には衝撃を受けた。街に降りてすぐに分かるゴミの臭いや汚染されたドブの様な川、暑い中密集した住居に住む人々。街の衛生面はすぐにも改善する必要があるし、その子どもたちの中には学校に行けるのに非行に走り学校に行かない子がいるということも聞いた。街の中に綺麗な図書館があったが、これは財団の支援のもと建てたものだった。今後、途上国が自立できるような支援の仕方が必要であると心から感じた。学校を建ててもそこに行かない。技術を教えても活用ができない。施設を建設しても活用できていない。日本国は ODA の資金の額面だけで評価するのではなく、支援後その国はどう発展したかを見ていかなくてはと感じた。最後に、私は国際理解・開発教育の内容としてどういった支援が適切な支援なのかを今の子どもたちに考えてもらい、未来の人材を育てていきたいと思う。